

## 福島支店は開設一二〇周年を迎えました

▼福島支店は、七月十五日に開設一二〇周年を迎えました。



東北で最初、全国では七番目の店舗（本店を除く）として、明治三十二年（一八九九）七月に福島出張所が開設され、明治四十四年（一九一一）六月に支店に昇格しました。

▼福島出張所が、全国的に見ても比較的早い時期に開設されたのは、当時、福島が重要輸出品であった生糸や米穀の集散地で、東北の物流と金融の中心で



パネル展に展示した出張所、旧店舗などの写真

あったためと言われています。福島支店の旧店舗は、辰野金吾博士（日銀本店本館や東京駅丸の内駅舎等を設計）らが設計した福島市を代表する明治洋風建築でしたが、老朽化等を受け、

昭和五十五年（一九八〇）に現店舗に建て替えられました。▼開設一二〇周年を迎え、地元の方に支店の歴史を知っていただくため、出張所や旧店舗当時の写真、旧店舗の模型、支店周辺の旧市街地図等を展示した「記念パネル展」を支店ロビーで開催しました。多くの方にご来場いただいたこのパネル展の模様は、福島支店HPの開設一二〇周年を記念した特設ページに掲載予定です。



旧店舗の模型（株式会社福島まちづくりセンターより借用）

▼東日本大震災および原発事故から八年余りを経て、福島県の復興は着実に進んでいます。福島支店は、震災当時を含め、決済システムの維持や現金供給等を通じて県内の経済活動を支えてきました。今後も地域とともに歩みを重ね、その一層の発展に貢献してまいります。

## 金融市場調節事務のペーパーレス化に取り組んでいます

▼金融市場局市場調節課では、二〇一九年四月の金融政策決定会合で決定された「強力な金融緩和の継続に資する諸措置」の一環として、「国債補完供給」事務のペーパーレス化に取り組んでいます。

▼現在日銀が行っている金融政策（注1）のために、当課が行う国債の買い入れといった金融市場調節事務（オペレーション）は、年間一〇〇〇回を超えます。特に、日銀が保有している



ペーパーレス化初日、順調に進捗してホッと一息

国債を、一時的かつ補完的に市場参加者に貸し付ける「国債補完供給」の利用が大きく増えています（注2）。この国債補完供給事務を行うにあたり、これまで金融機関と日銀とのやりとりはファクシミリを通じて書面で行われていたため、利用先・日銀の双方にとって、負担の大きさが課題となっていました。

▼そこで、今般、「市場オンライン」を利用した電子ベースの事務に移行することで、利用先・日銀双方の負担軽減、および利便性の向上を図りました。

▼今後も、円滑な金融市場調節のため、RPA（注3）などの新しい技術を活用しつつ、他の市

場調節事務についてもペーパーレス化を一段と推進していきたいと思います。

(注1)「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」のこと。詳細は日銀HP「教えて！にちぎん」をご参照ください。

(注2)二〇一八年度に行った国債補完供給の回数は、全てのオペレーションのうち最多の年間三六二回にのぼり、申請銘柄数は二三五銘柄となりました。

(注3) Robotic Process Automationの略。パソコンに組み込まれたソフトウェア型のロボットにより定型の単純な業務を自動化するテクノロジーを指します。

## 「SDGs／ESG金融に関するワークショップ」および「第二回ガバナンス・ワークショップ」を開催

▼金融機構局金融高度化センターは、六月十一日に「SDGs／ESG金融に関するワークショップ」を開催しました。世界的にSDGsやESG（注）を踏まえた金融の動きが広がるなか、わが国金融機関がこれにどう向き合っていくかを探るため、先行して対応する金融機関や専門家から、



具体的な取り組み事例等が紹介されました。議論を通じ、「SDGs対応は金融機関の本来の役割と親和的で、何か特別なことが求められるわけではない」との見方が共有されました。

(注) SDGs (Sustainable Development Goals)：持続可能な開発目標とは、二〇三〇年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会的などの諸目標を達成するための国際連合が主導する活動。ESGとは、環境 (Environment)、社会 (Social)、企業統治 (Governance) の頭文字を取ったもの。

▼また、七月三日には、「第二回ガバナンス・ワークショップ」



を開催し、「ガバナンス改革と内部監査の高度化―経営監査の実践と社外取締役の役割



SDGs／ESG金融に関するワークショップの様相



第2回ガバナンス・ワークショップの様相 (撮影：野瀬 勝一)

」をテーマに、講演や議論を行いました。経営層を含む実務家や専門家、当局から、「経営に資する監査」について示唆に富む意見が披露されました。

▼ワークショップにおける講演資料等は日銀HPに掲載いたしますので、ぜひご覧ください。

## 本館見学を部分再開しました

▼本店本館（国指定重要文化財、一八九六年竣工）の見学を二〇一九年八月から部分的に再開しました。本館の中庭を一般

見学（要事前予約）でご案内しています。



▼二〇二〇年春頃には本館見学を全面再開し、中庭に加え、本館の建物内をご案内する予定です。地下金庫や旧営業場（ロビー）の中にお入りいただけるようにするほか、本館の建物内で写真撮影する機会を新たに設ける方向で検討しています。

▼建物内の展示としては、日本人建築家が手掛けた最初の国家的近代建築である本館の建物の魅力やその歴史に関する内容の充実を図ることを考えています。また、世界最初といわれる銀行券自動鑑査機（日銀に還流



本店本館（重要文化財）

## 編集後記

■私は昭和40年生まれなので、社会人になるまでのほとんどは昭和の時代でした。なぜ突然昭和？と思われるかもしれませんが、今回ご紹介したいくつかの話題は、私にとってまさに昭和を象徴するものでした。大空小学校初代校長の木村様から、障がいを持つ子どもそうでない子ども一緒に学ぶインクルーシブ教育についてお話を伺いましたが、自分の小学校時代を思い返し、今更ながら多くの気づきや反省がありました。映画評論家の佐藤様と原田審議委員の対談では、私も学生時代に映画をよく観ていて、自分の感想と専門家の評論の違いに戸惑いつつも、その度に視野が広がっていったことを思い出しました。作家の阿刀田様のエッセイを拝読し、昭和の時代は資産運用にあまり知恵を絞る必要もなかったなあ、などと振り返りました。令和の時代が始まって約5カ月になりますが、将来の夢や成長期待にあふれ、そして平和に向けて世界が動いていた、私が青春を過ごした昭和のような時代になって欲しいものです。(中川)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。  
([https://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<https://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2019年秋号  
編集・発行人 中川 忍  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

### 「日銀夏休み子ども特別見学会三〇一九」を開催

▼見学会ご希望の方は、本店見学会予約サイトからお申込みください。見学会希望日の九〇日前から七日前まで、予約することができます。

▼日本銀行本店では、夏休み期

してきた銀行券の真偽・枚数・汚損度を点検する機械)等を新たに展示する方向で検討しています。

間中の七月二十九日(月)〜八月二日(金)の五日間にわたり「日銀夏休み子ども特別見学会三〇一九」を開催しました。

▼見学会では、本店見学会やお札に関する体験学習などのプログラムにご参加いただきました。また、中学生を対象に「金融政策を決めるのは、君だ!」と題した模擬金融政策決定会合を実施しました。グループに分かれて架空の経済ニュースをもとに、景気・物価の動向とそれを



金融政策について議論する様子

踏まえた金融政策について議論し、最後には実際の金融政策決定会合と同様に、議長が政策を提案、メンバーの多数決で決定しました。

▼毎回好評をいただいております見学会の次回の開催は、来年の春休み期間中を予定しています。皆さまのお待ちしております。

